

東海第二発電所では、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、万一、電源や冷却機能がなくなり、原子炉や燃料の損傷などの重大事故(シビアアクシデント)が発生した場合に備え、様々な対策を実施しています。

重大事故対策を実施しています

福島第一原子力発電所の事象経過

原子炉等の冷却に必要な電源を失う

原子炉等へ冷却水を給水する機能を失う

原子炉内の燃料被覆管から発生した水素が、建屋内に滞留し原子炉建屋の水素爆発が発生

東海第二発電所の対策

～電源車を配備済～



原子炉等の冷却に必要な電源を供給できます



電源ケーブル繋ぎ込み
(夜間訓練の様子)

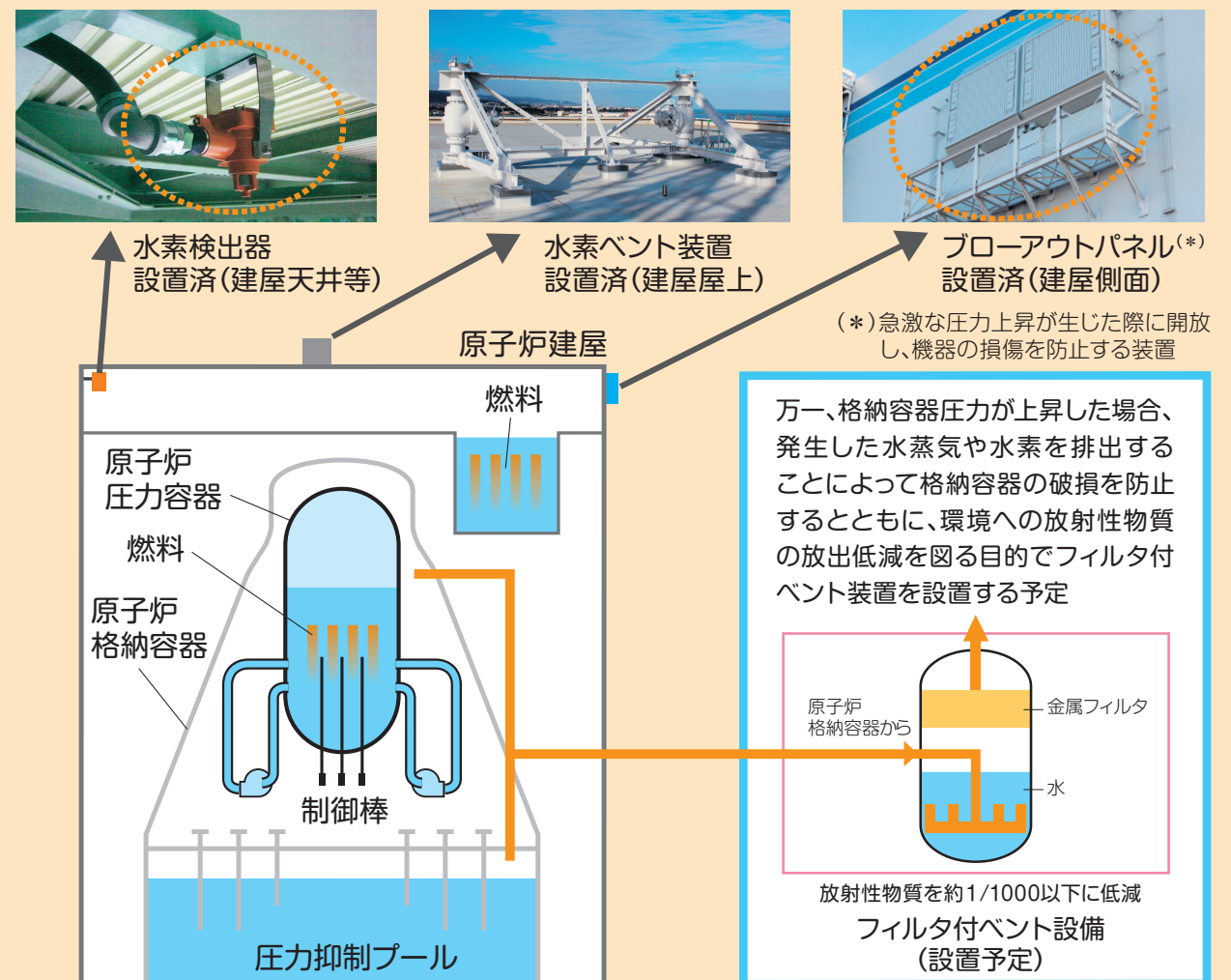
～ポンプ車を配備済～



電源がなくても原子炉等へ冷却水を供給することができます



原子炉への注水訓練の様子



私たち原電は、東海第二発電所の安全対策に全力で取り組んでいます。

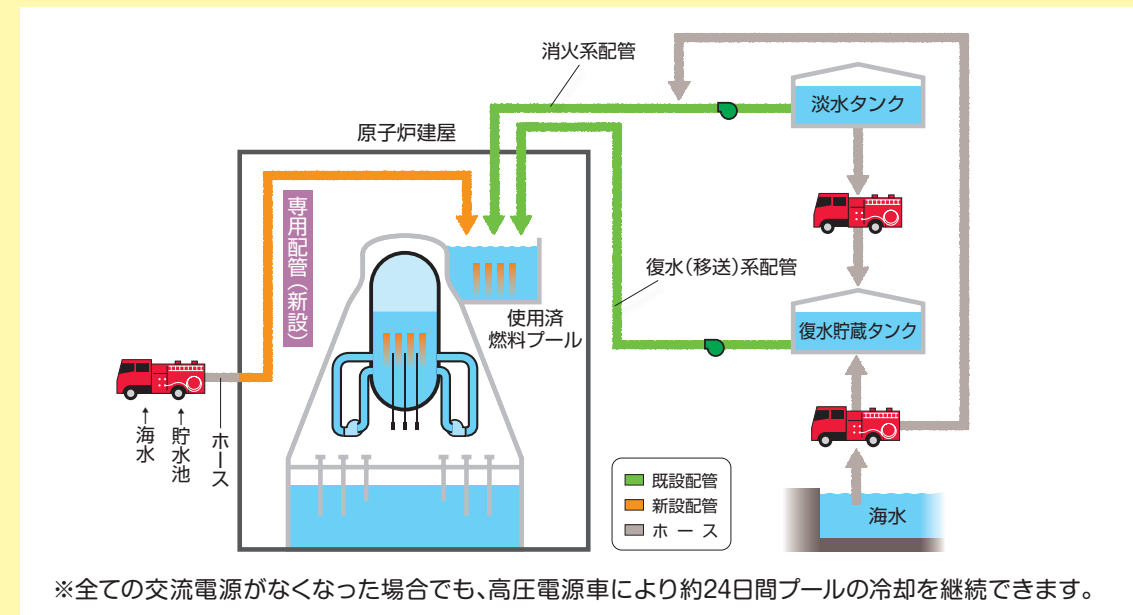
皆様からのご質問にお答えします ～ 震災後に地域の皆様から寄せられたご質問 ～

ご質問： 使用済燃料は、どのように管理しているのですか？

回答： 現在、発電所内の使用済燃料は、原子炉建屋内にある ①「使用済燃料プール」と、敷地内にある ②「使用済燃料乾式貯蔵建屋内の貯蔵容器」で、安定した状態で安全に保管しております。今後も新知見等に基づき使用済燃料の安全対策に継続して取り組んでまいります。

①使用済燃料プール

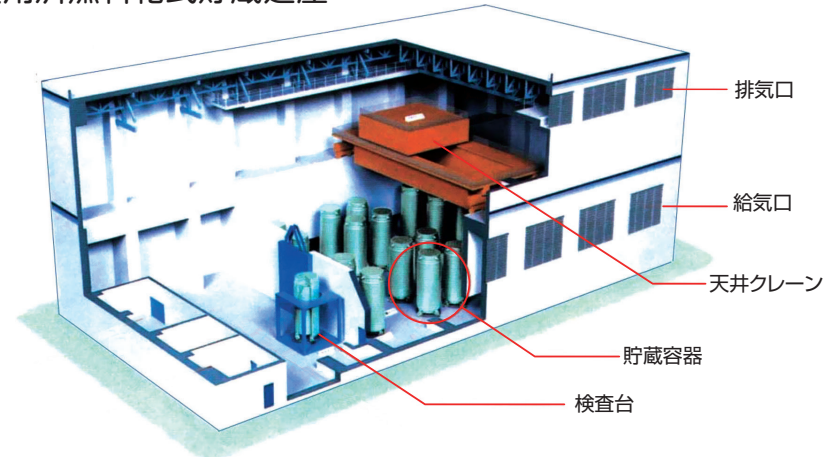
使用済燃料を常時冷却しています。東北地方太平洋沖地震の発生時は、停電により冷却機能が一時的に停止したものの機器などには異常はなく、電源の回復により冷却機能も復旧しました。その後、新たな対策を講じて、万一、冷却装置が停止したとしても、ポンプ車や消防車などで冷却水を直接プールに注水し冷却することが可能です。



②使用済燃料乾式貯蔵建屋内の貯蔵容器

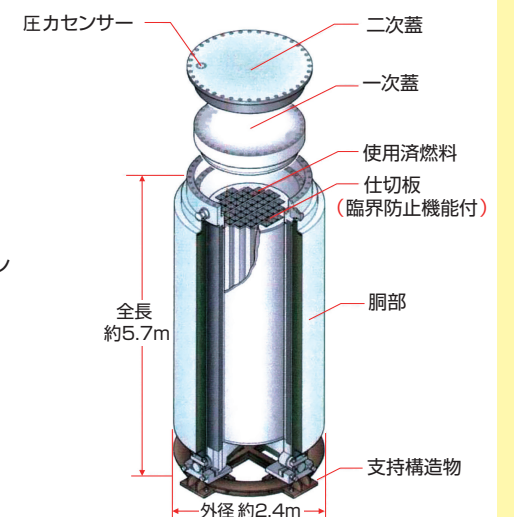
発電所の使用済燃料の一部は、敷地内にある使用燃料乾式貯蔵建屋内の貯蔵容器に入れて保管しています。貯蔵容器は高い放熱性能と耐震性を有しており、冷却水がなくても空気で自然冷却できる性能を持っています。なお、東北地方太平洋沖地震の発生時も、貯蔵容器に異常はみられませんでした。

使用済燃料乾式貯蔵建屋



※当社は東京電力㈱と共同で、使用済燃料を保管するための中間貯蔵施設を青森県むつ市に建設中です。

貯蔵容器



東海原子力館（東海テラパーク）のお知らせ

東海テラパークでは、東海第二発電所の安全対策や訓練の模様等を、各種パネルやビデオでご覧いただくことができますので、ぜひお越しください。

展示物等のご案内

*地域の方々の作品を展示しています

●3月7日～4月7日
「春を彩る布小物」展示
～どなたでもご覧いただけます～



●3月10日～4月30日
「東海村アートロード展」
～どなたでもご覧いただけます～



東海テラパーク

所在地 那珂郡東海村白方1-1
電話 029-287-1252
開館時間 9時～16時30分
入館料 無料
休館日 年末年始(12/29～1/3)



お問い合わせ先
土日祝日を除く 9時～17時



日本原子力発電株式会社

茨城総合事務所
東海事務所

茨城県水戸市笠原町978-25 TEL:029-301-1511
茨城県那珂郡東海村白方1-1 TEL:029-287-1250

当社ホームページ
<http://www.japc.co.jp/>